

令和6年度

福岡教育大学附属小倉小学校

授業づくり公開研究会

子どもの資質・能力を確かに育む授業づくり

北九州市小学校音楽教育研究会授業研究部

音楽的な見方・考え方を働かせる音楽科授業づくり

授業者 光本 愛美

令和6年6月29日(土)

主催 福岡教育大学附属小倉小学校

- 1 題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう
- 2 教材名 「陽気な船長」「ゆかいに歩けば」「白鳥」「堂々たるライオンの行進」「とんび」
- 3 指導観

(1) 児童観

本学級の児童は、歌うことが好きな児童が多く、響きのある歌声で歌おうとしている。また、新しい楽曲に出会った際には、鑑賞後どのように感じたのか感想を出し合うようにしている。その際、「楽しそうな曲。」「明るい、元気な感じがする曲。」など、曲想から感じたことについて様々気付くことができるが、思考判断のよりどころである音楽を形づくっている要素から知覚聴取し、感じたことの根拠を見つけている児童は少ない。さらに、知覚したり感受したりしてとらえたことをもとに、思いや意図をもって歌い方を工夫するまでには至っていない。そこで、今回の学習では、音楽を形づくっている要素を思考判断のよりどころとしながら、ICTを効果的に活用していく。鑑賞領域では、言葉のパレットを参考にしながら、自らが聴きとったことと感じ取ったことを端末に書き込み、それらを学級で共有できるようにする。また、表現領域では、演奏の仕方や歌い方を工夫する際、自分の思いや意図、イメージなどを友達と共有することができるように活用する。さらに、自分たちの歌声を客観的にとらえ、達成感を味わわせることができるよう、録音機能を活用できるようにする。これらの手立てにより、音楽を形づくっている要素の「強弱」を児童の思考判断のよりどころとし、表現がよりよいものになるようにしていきたい。

(2) 題材観

本題材では、旋律や楽曲の特徴を感じ取りながら想像豊かに聴いたり、曲想にふさわしい表現になるよう工夫をして演奏したり歌唱したりすることをねらいとしている。

この時期の児童は、音楽を聴いて感じたり、聴き取ったりしたことをもとに、思いや意図をもって表現の仕方を工夫することができるようになる。このことを踏まえると、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、思考判断のよりどころである音楽を形づくっている要素を意識した鑑賞や表現の学習を関連付けて行うことや、音楽からとらえたことを自己のイメージや感情、生活と文化と結び付けることができるようにすることが大切であるといえる。

具体的活動として、鑑賞の学習では、体の動きを伴った活動により、旋律の特徴を感受したり、音楽を形づくっている要素を意識しながら知覚したりして、とらえたことを友達と伝え合うようにする。表現の学習では、曲想にふさわしい表現や自分の思いが表現できるように、音楽を形づくっている要素を思考判断のよりどころとして繰り返し歌い試すようにする。また、友達と表現を聴き合い、互いの表現のよさを発見するようにする。一つの題材において、鑑賞と表現の学習を関連付け、往還させながら様々な音楽的活動を体験することで、音楽がもつよさや面白さ、音楽を感受する力の深まりを目指す。

このような学習は、中学年の児童にとって、今後出会う様々な音楽に対して、音楽の見方・考え方を働かせながら根拠をもって音楽を捉える力を育み、生涯に渡ってよりよく音楽を楽しむことができるようにしていく上で意義深い。

(3) 教材観

「陽気な船長」は、跳躍進行を中心としたはずんだ感じの「ア」と、順次進行を中心としたなめらかな感じの「イ」で構成されている。前半と後半の旋律の特徴を比較しながら曲のまとまりを感じ取り、それぞれの旋律の特徴を生かした歌い方やリコーダーのスタッカート奏や息の使い方に気を付けた演奏の仕方を身に付けることができる。

「ゆかいに歩けば」は、明るい自然の中を、マーチ風のリズムにのせて楽しく歌う曲である。スタッカートの多い前半「ア」と伸ばす音が多い後半「イ」で旋律の特徴が変化するため、それらを生かした歌い方の工夫に結び付けやすい。

「動物の謝肉祭」は、全14曲からなる組曲である。その中の「白鳥」は、ゆったりと上下するチェロの旋律と細かく上下する旋律を繰り返すピアノ伴奏で構成されている。その旋律の特徴を感じ取り、美しく優雅に泳ぐ白鳥の様子を想像しながら楽曲を味わうことができる教材である。また、主な旋律が歯切れよい「堂々たるライオンの行進」と比較鑑賞をすることで、強弱や旋律を思考判断のよりどころとし、ライオンの力強さを想像しながら楽曲を味わうことができる。

「とんび」は、大正8年「大正少年唱歌（一）」で発表された。具体的でわかりやすい歌詞や旋律の上がり下がりから情景を思い浮かべやすい教材である。また、1、2、4段目の旋律の模倣やとんびの鳴き声を表す旋律の同型反復といった特徴から曲想の変化を感じ取りやすく、歌い方の工夫に結び付けることができる。

(4) 指導観

指導にあたっては、鑑賞で感じ取ったことや聴き取ったことを伝え合い、唱法や奏法に生かしていく。また、自分たちの表現を聴き合うことで、表現を高めていく。さらに、音楽を形づくっている要素を思考判断のよりどころとして、表現領域と鑑賞領域の往還を図り、両者を関連づけて学習できるようにする。

第一次の1・2時では、楽曲を聴く際に、指揮をしたり、音楽に合わせて体を動かしたりし、児童が曲想の変化や旋律の特徴に気付くことができるようにする。その後、とらえたことの根拠を音楽を形づくっている要素と関連づけながら表現の工夫を考え、それらをリコーダー奏で表現できるようにする。

第二次では、楽譜に着目し、スタッカートの多い前半「ア」と伸ばす音が多い後半「イ」で旋律の特徴が変化していることに児童が気付くようにする。更に、後半「イ」では、楽譜に旋律線を書き込んで曲の山を見つけ、どのように歌いたいかについて、強弱を思考判断のよりどころとしながら思いや意図をもって歌うようにする。その際、既習楽曲の「かくれんぼ」や「ふじ山」を想起し、既習事項と関連づけながら、想像した情景や旋律の特徴にふさわしい表現の工夫ができるようにする。

第三次では、指揮をしたり、音楽に合わせて体を動かしたり、図形楽譜をかいたりするなどの活動を取り入れ、児童が曲想の変化や旋律の特徴に気付くことができるようにする。さらに、2曲を比較鑑賞することで、曲想に合う強弱の変化にも着目させ、次時の学習へつなげるようにする。

第四次の「とんび」の学習では、まず、楽曲を聴いてとらえたことをタブレットに書き込み、

学級全体で共有する。次に、歌詞から様子を想像したり、旋律に着目したりし、それらがとんびの様子を表していることに気付くようにする。その後、とらえたことから曲想にふさわしい表現になるよう、工夫しながら歌うことができるようにする。活動にあたっては、グループでどのような情景を表したいかイメージを共有し、「こういう様子が伝わるようにこのような強弱で歌いたい」と思いや意図を伝え合ってから繰り返し歌い試しながら、よりふさわしい表現に高めていくようにする。その際、グループでのイメージ共有や表現の工夫についての話し合いが効果的に行えるよう、ICTの活用を図る。

4 題材の目標

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想及びその変化、旋律などの音楽の構造との関わりに気付いている。 ○思いや意図に合った表現にするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。 ○思いや意図に合った表現にするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、全体を味わって聴いている。 ○旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	○旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や器楽・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画


時	指導計画	評価計画
第一次	第1時 楽曲「陽気な船長」について、 ア と イ の旋律の特徴に気付き、それぞれの旋律に合う演奏になるよう、リコーダーの奏法を工夫する。	○音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考え、全体を味わって聴いている。【思・判・表現】 (行動観察・学習カード分析)
	第2時 楽曲「陽気な船長」について、副次的な旋律と合わせて、二重奏をする。	○思いや意図に合った表現にするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。【知・技】(演奏聴取)
第二次	第3時 楽曲「ゆかいに歩けば」について、前半 ア と後半 イ の旋律の特徴を感じたり、歌詞から想像をふくらませたりしながら歌う。その後、前半 ア の部分を工夫して歌う。	○曲想及びその変化、旋律などの音楽の構造との関わりに気付いている。 【知・技】(行動観察・学習カード分析)

	第4時	楽曲「ゆかいに歩けば」について、歌詞や旋律の特徴から情景や気持ちを想像し、それらが表現できるように、後半「イ」の歌い方を工夫する。	○旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。【思・判・表】 (行動観察・学習カード分析、演奏聴取)
第三次	第5時	それぞれの曲の旋律の特徴を感じ取り、言葉や体の動きで表現しながら、「白鳥」「堂々たるライオンの行進」を鑑賞する。	○曲想及びその変化、旋律などの音楽の構造との関わりに気付いている。 【知・技】(行動観察・学習カード分析)
第四次	第6時	楽曲「とんび」について、歌詞や音の上がり下がりから「とんび」の様子を想像しながら歌う。	○旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や器楽・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【主体】(行動観察・学習カード分析・演奏聴取)
	第7時	楽曲「とんび」について、歌詞や旋律の特徴から情景を想像し、それらを表現するために思いや意図をもって歌い方を工夫する。 【本時】	○旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。【思・判・表現】 (行動観察・演奏聴取・学習カード分析)
	第8時	楽曲「とんび」について、前時のグループでの歌い方の工夫から、自分がどのように歌いたいか、思いや意図をもち、強弱を工夫して歌う。	○思いや意図に合った表現にするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。【知・技】(学習カード分析・演奏聴取)

6 本時の学習

- (1) 日時 令和6年6月29日(土) 8:45~9:30 音楽室
- (2) 主眼 歌詞の内容や旋律の特徴から「とんび」の様子を想像し、その様子が伝わるように何度も歌い試す活動を通して、思いや意図をもって歌い方を工夫することができるようにする。
- (3) 準備物 拡大楽譜、拡大歌詞、情景画、タブレット端末、大型テレビ、CDプレイヤー、CD、オルガン、タブレット内のワークシート、ふり返りカード

(4) 展 開

<p>主な学習活動・内容</p>	<p>○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準 (評価方法)</p>
<p>1. 前時の学習を想起しながら「とんび」を歌い、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ 前は、曲の感じをつかみましたね。そして、歌詞に着目して様子を想像しましたね。その後、旋律の上がり下がりに着目し、とんびが飛んでいる様子を思い浮かべましたね。</p> </div> 	<p>○ 前時の学習を想起できるよう、児童がとらえたことをテレビモニターに映し出す。</p> <p>○ とんびの様子を想像することができるように、挿絵を掲示したり、旋律の上がり下がりに合わせて体を動かしたりしながら歌うようにする。</p> <p>○ 本時の活動（3段目の強弱の工夫）への意識が高まるよう、拡大楽譜の1・2・4段目には、前時に、どのように歌いたいかの強弱記号を書き込んでおくようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【めあて】 想像した「とんび」の様子が伝わるように、強弱を工夫して歌おう。</p> </div>	
<p>2. 本時の学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 想像した「とんび」の様子をとらえたことをもとにして伝え合う。</p> <p>(2) 想像した「とんび」の様子が伝わるように強弱を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何度も歌い試し、表現を工夫する。 ・ ICTで録音した歌声を確認し、表現を高める <p>(3) 全体で発表する。</p> </div>	<p>○ グループ活動の流れに児童が見通しをもてるように、学習の流れを確認する。既習曲の学習を想起し、歌い試すようにしながら表現を高めるように助言する。</p>
<p>3. グループで歌い方を工夫する。</p> <p>(1) 想像した「とんび」の様子をとらえたことをもとにして伝え合う。</p> <p>(2) 想像した「とんび」の様子が伝わるように歌声で表現するには、どのように強弱を工夫すればよいかを、何度も歌い試す。</p>	<p>○ イメージをグループで共有しやすくするために、ICTを活用する。とんびの数や距離感、とんびがしているであろう会話等を想像し、画面に書き込むようにする。</p> <p>○ 音楽ありきの話し合い活動となるよう、歌い試すことについて、随時声かけをする。また、思いや意図を表現することができるよう、歌い方や歌う際の体の使い方なども助言する。</p>

(3) ICTを使って、より表現を高めるようにする。

例1) 2羽(親子)のとんびの食事前の会話。

近くで親が

「ご飯できたよ～帰ってきなさい」

に対して、遠くで子どもが

「はい。今、行くね。」と会話している様子

を伝えるために、前半は、f,

後半は、mpにして歌います。



例2) 2羽(友達)のとんびの遊ぶ前の会話。

2羽の距離は、近くで、「遊ぼう→いいよ→何

して遊ぶ→おにごっこ」と会話をしている様子

を伝えるために、f→mf→f→mfの順

で歌います。

4. 学級全体でいくつかのグループの表現を取り上げ、紹介し合う。

5. 好事例のグループの工夫を用いて、曲全体を通して歌い、本時のまとめをする。

6. 本時の学習を振り返り、次回の見通しをもつ。

○ 歌唱と鑑賞の往還を図り、よりよい表現になるよう、ICTを活用する。活用の仕方としては、自分たちの歌声を録音し、それを客観的に聴く。その鑑賞での感じ取りをもとに、再度、工夫を吟味したり、より強弱をつけて歌うことができるようにしたりする。

○ 想像した「とんび」の様子が歌声に表れているグループを価値づけることで、児童が自信や達成感をもって活動できるようにする。

○ 強弱を付けて歌うことが難しいグループへは、強弱記号を5段階で数値化したり、「一番大きく歌うと、どのくらいの声量になる。」と問うて歌わせたりして、児童の思いや意図が実現するよう助言する。

【思・判・表】旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

(行動観察・演奏聴取・学習カード分析)

○ 想像したとんびの様子とそれを表現するための強弱の工夫を紹介する。学級の半数の児童が歌い、残りの半数の児童が鑑賞する。

○ 鑑賞する際は、音楽を形づくっている要素を思考判断のよりどころとして知覚感受し、聴取できるように、声かけをする。

○ 好事例を取り上げて、まとめの歌を歌うが、どのグループも想像した様子に合わせて工夫していてよかったことを伝え、音楽の楽しさに気付き、達成感をもたせることができるようにする。

○ 学習カードに記入することで、本時の学びを振り返る。

○ 音楽を形づくっている要素を意識させて振り返るようにする。

ご指導、よろしくお願いいたします。